

# 平成 26 年度 追跡評価書

研究機関 : エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、日本電信電話(株)  
研究開発課題 : 経路ハイジャックの検知・回復・予防に関する研究開発  
研究開発期間 : 平成 18 ～ 21 年度  
代表研究責任者 : 南澤 正人

## ■ 総合評価

(総論)

得られた成果が現在も活用されており、実用性が高く、研究開発は有意義なものであった。

(コメント)

- 今後の国際展開も含めて計画され、実行に移されている。
- 学術的な貢献は少ないが、実用性が十分高いものであり、大きな問題はないと思う。

## (1) 成果から生み出された経済的・社会的な効果

### (総論)

インターネットの信頼性確保・向上は、我が国の安全に寄与するものであり、当該プロジェクトはこれを担うものであることから、経済的・社会的に効果のあるものであった。

### (コメント)

- 成果は、実用性の面、学術的な面の両面で考えるべきであり、本研究開発は、非常に実用性が高く、経済的・社会的効果が十分あったものと評価できる。(学術面は弱いですが、特許で対価を得るような性格の研究開発ではなかったと考える。)
- 今後、(ISPにおけるミスオペレーションに起因する経路ハイジャックに加えて、)悪意の行為の増加が考えられることから、本研究開発の成果の重要性はますます高まってくると考えられる。
- 研究開発で得られた成果に関して、国内での特許獲得などが適切に行われている。

## (2) 成果から生み出された科学的・技術的な効果

### (総論)

成果は、RIPE NCC whois、RPKI 等へ適用が行われており評価できる。

### (コメント)

- 検知、回復、予防の面で実用的、かつ効果的な成果を導き出している。
- 認証方式を含め、技術水準は実用的な性能に達しており、高く評価できる。

### (3) 波及効果

#### (総論)

成果の利用により、インターネットの信頼性の確保につながっている。国際的にも展開しており、効果は大きい。

#### (コメント)

- ISP、Telecom-ISAC、JPNIC 等の連携により、検知・回復する仕組みを作り、運用していることは高く評価できる。
- 今後は東南アジアを含めて国際展開を考えられており、期待できる。

### (4) その他研究開発終了後も実施すべき事項等

#### (総論)

ISP 等において実装されているシステムの継続的な運用が期待される。技術が攻撃者に悪用されないよう留意しつつ、研究開発を行った活動に関して、国際会議を含め、論文発表等、文書で発表を行う必要がある。

#### (コメント)

- 参加ISPを増やすための取組を自主的・継続的に実施していることは評価できる、また、今後とも普及・促進を進めることが期待される。
- システム全体のセキュリティを維持することが重要。
- 研究開発を行った活動に関して、国際会議を含め、論文発表等、文書で発表を行う必要がある。

## (5) 政策へのフィードバック

### (総論)

当該プロジェクトは情報基盤の信頼性の維持、向上を担当するものであり、また、複数の企業にまたがるものであることから国家プロジェクトに値するものであった。

### (コメント)

- 今後、得られた成果を諸外国に対して波及させるために、国としても推進していくことは重要である。
- ISPの協力体制が維持されており、インターネットの信頼性の維持・向上に資する研究開発であったと高く評価できる。